

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議 議事要旨

日時	平成27年8月21日(金) 午前10時～12時	場所	本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議委員	内田委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本委員（清須企業懇話会幹事） 富田委員（愛知県教育委員会文化財保護室室長） 北山委員（代理出席：丹羽教頭）（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田委員（中日信用金庫理事長） 平野委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）	
	清須市	市長、副市長、教育長、企画部長、事務局	

1 開会（加藤市長あいさつ）

- 委員紹介（事務局・河口課長）

2 議題

(1) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- 資料説明（事務局・忠内副主幹）
- 委員意見・座長総括（各委員、内田座長）

①本市の地方創生の取組みを進めるにあたっての課題・視点・方向性等	
山本委員	休日の滞在人口増加が重要。まず、主ターゲットと目的を定めてから、取組みを検討すべき。
富田委員	市の宝である朝日遺跡を、地方創生・振興のため、活用という視点から何ができるか考えたい。朝日遺跡の出土品は、愛知のモノづくりの原点という視点が必要。
北山委員 （代理出席：丹羽教頭）	地域外から通う学生が多く、本市の事を知らない。信長は単体でも魅力的な資源だが、清洲城と新幹線等、今ある資源の組み合わせの工夫も、効果的である。
舟橋委員	本市には道路や土地活用の面で課題を感じる。清洲城は良いが駅からの魅力向上が大事である。
山田委員	コラボレーションの場ができた事は素晴らしい。地元での朝日遺跡の認知度が低い事は残念。遺跡は、専門家のものでなく、連綿と現代の市民に続く原点であると、見える化、共有化する必要がある。
平野委員	企業にとっては、地域の安全安心も立地を検討する上で重要な要素である。
【内田座長総括】	
都市ブランドはイメージが大事。ブランド形成には地元の認知度向上が不可欠。記憶に残る工夫やインパクトも重要。道路等の新設は難しくても情報提供や工夫でアクセス改善は可能。名古屋駅からバスのピストン輸送等、市外からの来訪者の利便性を向上すべき。シニア層の獲得には、本物志向が大切。	

②各委員が関連する重点検討分野に関する議論を深める上での課題・視点・方向性等	
山本委員	企業の連携、コラボは重要。当施設の10万人の見学者と運営ノウハウを多様に活かして欲しい。
富田委員	単独では難しくても、コラボやパッケージ化で個々の魅力が高まる。朝日遺跡を地元で愛される場所にしたい。シニアは仕事と別の活動を持つと健康と生きがいにつながる。（「名刺を2枚持つ」ライフスタイル）
北山委員 （代理出席：丹羽教頭）	市外からの8割の生徒が、在学中に本市を好きになれば、将来、定住する場所の選択肢となる。若い時の印象は重要である。駅からの交通の不便さも、好印象を持たせる上での課題である。
舟橋委員	介護問題の解決からも、シニアが元気であるべき。大学も地域の中での貢献を考えている。
山田委員	点ではなく面での取組みと、連綿と現代に続く時間軸が重要。背景にある自然環境等、歴史の必然を理解した上で、次世代に何を残すかを考える事が求められる。
平野委員	人口施策は効果に時間がかかる。今は困っていなくても必要な対策は先を見据えて実施すべき。
【内田座長総括】	
メディアは、ストーリーや話題性のある情報を取り上げる。朝日遺跡を活用した麒麟のクラフトビールづくり等、地域も企業もウインウインとなる。本市は様々なコンテンツがありポテンシャルは高いので、関係者の意識がまとまれば、コラボやパッケージ化等、良い方向へ進む。	

(2) その他

- 戦略提言会議の日程調整について

3 閉会（加藤市長あいさつ）